

A 研究報告概要

- 一覧表（感染症種類毎）
- 感染症毎の主要研究報告概要
- 研究報告写

研究報告のまとめ方について

- 1 6月1日以降に報告された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。

- 2 一覧表においては、前回の運営委員会での報告したものの以降の研究報告について、一覧表の後に当該感染症の主要研究報告の内容を添付した。

感染症定期報告の概要(2005/6/01~2005/8/31)

受理日	血封番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	A型肝炎、E型肝炎	ProMed, 2005年2月8日	黄疸(肝炎)の流行がUttam Nagar地域の一部地区で発生しており、黄疸患者約65名が2005年2月7日保健省当局チームによって確認された。情報の欠落により現時点では起因病原体の特定に至っていないが、今後汚染された水道水が感染源と証明されれば、A型肝炎または／およびE型肝炎の可能性が強まることが記載。]	
2005/6/13	50051	A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。	
2005/6/7	50055	A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN# 04-08	米国血液銀行協会(aaBB)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保健当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。	
2005/6/13	50052	A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	Communicable Public health, Vol.7 No.4, 289-293 (2004)	South YorkshireにおけるA型肝炎症例の増加の大部分は静脈薬物を使用している若い男性であった。地域密着型の予防接種プログラム、地区の刑務所での4週間にわたる予防接種キャンペーンなどの結果、A型肝炎の増加は終息	
2005/8/12	50102	A型肝炎	MMWR, Vol. 54 No.18, 453-456(2005)	IgM型HAV抗体陽性で最近の肝炎の徴候または症状のない一部の人々については、最近の急性感染症後の持続検査陽性という理由が考えられるが、肝炎の徴候症状がない、3つの調査においてHAV抗体陽性の大部分の人々は感染症の特定のリスクのない高令者であり、再検査を行った大部分はIgM型HAV抗体陰性。他者への感染伝播は報告されていない。よって肝炎特有の症状のない高令者におけるIgM型HAV抗体陽性試験は、偽陽性結果または最近のHAV感染症よりも数ヶ月から数年前に発症したHAV感染症の結果である可能性が高いことが示唆されたことなどについて記載されている。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	Pro Med2004/12/27	ムルマンスク地域のApatit市民130名がA型肝炎現時点で肝炎と診断されている。患者数は日に日に増加し、疫学者らは、上水道が感染源であると示唆している。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	Kaliningrad国営ラジオ・テレビオンライン版, 2005年1月12日	2005年1月初旬以降、Kaliningrad地域Sovetsk市において(成人・小児合わせて)約30名が、A型肝炎に罹患した。大部分の感染者は、汚染された野菜やフルーツを摂取して感染した。	
2005/8/12	50102	A型肝炎、E型肝炎	ProMed, 2005/3/28	肝炎(黄疸)の流行がBaramatiからPuneへと拡大し、Alandiの住民61名が汚染された飲料水を摂取して感染した。今回の流行は、平行して走る下水管からの漏水による上水の汚染が原因である。流行の原因としてA型およびE型肝炎が共に考えられること	
2005/8/12	50102	A型肝炎	ProMed, 2005/3/28	Hyderabad (Andhra Pradesh州)でのA型およびE型肝炎流行。2005年3月第4週に渡り、患者100名以上が旧市街の狭い地区1区のみから報告された。患者はA型およびE型肝炎と診断されている。過去数日間では、患者数は増加を続けているが、政府は、新規患者数は減少し始めたとしている。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	http://www.itar-tass.com/eng/level2.html?NewsID=2128607&PageNum=0	ロシア南西部Tver地域でA型肝炎に罹患した住民数が、小児142名を含む547名に達したと、明らかにした。流行感染源としての汚染ビールの役割は相変わらず議論の余地があり、この感染源から感染性のあるウイルスはまだ分離確定していない。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html	2カ所のレストランの食品取扱者におけるA型肝炎陽性症例について通知を受け、A型肝炎12例が確認され、予防措置として保健当局はこのレストランの全ての従業員に予防接種を実施したことなどが記載されている。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	ProMed, 2005年6月9日	2004年8月~9月に、Hurghadaのリゾート地のあるホテルに滞在した旅行者の間で大規模なA型肝炎の流行があった。オーストリア、スウェーデン、デンマーク、オランダ、ベルギー、イギリス、イタリア、スイスから患者が報告された。感染源として、朝食のビュッフェで出されたグレープフルーツジュースが疑われた事など	

受理日	血海番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	A型肝炎	ProMed, 2005年6月18日	ロシア南西部Tver地域におけるウイルス性A型肝炎患者数は小児177名を含む642名に増加。A型肝炎患者と接触のあった小児2000名を含む3000名以上がA型肝炎ワクチン予防接種を受けた。	
2005/8/12	50102	A型肝炎	ProMed, 2005年6月22日	Tver 地域南西地区でのA型肝炎患者数が、小児182名を含む662名に達した。モスクワ市の衛生疫学局は、2005年5月までの期間に、小児164名を含む1130名が肝炎に罹患したと発表している。モスクワでは4月20日から6月14日の間に、小児16名を含む176名がA型肝炎に罹患した。成人157名と小児15名が入院した。	
2005/6/7	50055	B型肝炎	ABC newsletter 2004年10月22日	FDA血液製剤問委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え供血者のエントリーを可能とするよう勧告した。	
2005/6/17	50053	B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリパセロコンバージョンとなる可能性が示された。	
2005/6/17	50053	B型肝炎	Eurosurveillance :10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。	
2005/8/12	50102	B型肝炎	Public Health Agency of Canada, 2005/3/22	ベルギーのFlandersにある老人養護施設2カ所において、糖尿病患者におけるfingerstick(血液採取用具)の複数回使用に関連した、急性B型肝炎感染症症例4例が最近発見されたこと、米国では、血糖値管理中の不十分な感染管理方法に関連した長期療養型施設の高令居住者におけるB型肝炎のアウトブレイク3件が最近報告されていること、英国の長期療養型施設における最近のB型肝炎のアウトブレイクは現在調査中であるが、伝播様式はいまだに不明であることなどが記載されている。	
2005/8/12	50102	B型肝炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb1105_e.html	血糖管理に関連したB型肝炎ウイルス感染のアウトブレイクによりCDCおよびFDAは1990年以降、指先穿刺用具の個人使用の制限を推奨してきた。最近、長期療養型施設居住者における血糖管理用医療用具の共用などによりHBV感染のアウトブレイク3件が発生した。これらについての調査および以前の報告から、基本的注意および指先穿刺用具に関する推奨は、常に長期療養型施設において実施されていないことが示唆されたことなどについて記載されている。	
2005/7/21	50074	B型肝炎	共同通信 2004年12月17日	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。	
2005/6/17	50053	B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。	
2005/6/17	50053	B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005; 88(1): 10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。	
2005/8/12	50102	C型肝炎	CDR Weekly, Vol. 15 No.5 (2005)	CFIにより調整された、第2期C型肝炎の再調査が完了した。2003年の最初の調査において、C型肝炎感染医療従事者(HCW)によりリスクの高い暴露の手技(EPP)が実施された500名の女性が調査され、調査に含まれなかった患者1例がC型肝炎と判明。今回はリスクの高いEPPが実施された住所が分かっている患者2530例および担当した一般医に対して、状況説明およびC型肝炎の血液検査を提案するレターが送付された。	
2005/8/12	50102	C型肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/5) 36 (2005)	NHS Ayrshire and Arran(NHSAA)はかつてAyrshire Central and Crosshouse Hospitalsの産婦人科に勤務していた医療従事者がC型肝炎と判明したことを395名の患者に通知し、血液媒介ウイルスへの感染の有無が英国諮問委員会によって実施された。通知されたグループ以外からC型肝炎ウイルスに感染している元患者が判明し、この医療従事者からの感染による可能性があることなどが記載されている。	1
2005/8/12	50102	C型肝炎	CDRWeekly,Vol. 15 No. 16 (2005)	Health Protection Agency Centre for infectionによって行われるC型肝炎複合週及調査活動において、2004年ロンドン病院の産婦人科で治療を受けた患者にC型肝炎ウイルス感染が確認され、この患者と患者を看護した医療従事者に遺伝子型が同一のウイルスが確認された。この医療従事者が働いていた1981年~2004年にこの医療従事者が関与する暴露の可能性のある処置を受けた全ての患者に対しC型肝炎検査を受けるよう推奨し、確認されている患者に対しレターが送られた。	

受理日	血対番号	感染種(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	C型肝炎	Evening Times, 2005年4月19日	ある産婦人科の外科医が最近C型肝炎であることが判明した。これに伴い、過去23年間にこの医師の治療を受けた患者にリスクがあることが通知され、女性1例が既にC型肝炎検査陽性であったことなどについて記載されている。	
2005/6/17	50054	C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである	
2005/6/17	50053	C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある	
2005/8/12	50102	C型肝炎	Pro Med.2005/1/5	当局は、C型肝炎で死亡した患者の感染源を、負荷試験や他の通常の診断検査時に血液中に注射される放射線同位元素テクネチウム99m (99mTc)の注射が感染源であったと追跡した。	2
2005/7/21	50074	C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。	
2005/7/21	50074	C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。	
2005/6/29	50064	E型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(4):563-72	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について	
2005/6/17	50053	E型肝炎	肝臓2004: 45 (Suppl3)日本肝臓学会 東部会講演要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。	
2005/6/17	50053	E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。	
2005/6/13	50051	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。	
2005/8/12	50102	E型肝炎	ProMed, 2005/3/28	肝炎患者数はBaramatiでは348名に、Alandiでは67名に増加したが、国立ウイルス学研究所(NIV)は今回の流行の原因をE型肝炎と特定した。NIV担当官は、5検体が検査でE型肝炎ウイルス陽性となったと述べ、病因ウイルスは汚染された飲料水を介して拡大したと確認した。	
2005/8/12	50102	E型肝炎	Pro Med 2005年1月7日	今年ムンバイ市内では、黄疸性E型肝炎ウイルス感染が、市の南部で猛威を振るっていると医療関係者が指摘している。	
2005/6/13	50052	HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。	
2005/8/12	50102	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/06) 43 (2005)	ニューヨーク市保健精神衛生局(DOHMH)は、急速進行性のHIVの高耐性株である3クラス抗レトロウイルス薬耐性HIV (3-DCR HIV)株が一度も抗ウイルス薬治療の経験のないニューヨーク市民から初めて診断されたと報告した。3-DCR HIVは、最も一般的に処方されている入手可能な4種類の抗ウイルス剤のうち3種類に対して耐性を示し、HIV感染からAIDS発症までの期間が短いと考えられている。	
2005/8/12	50102	HIV	Canada Public Health Agency, Infectious Diseases News Brief.2005年2月19日	急速進行性のHIVの高耐性株が一度も抗ウイルス薬治療の経験のないニューヨーク市民から初めて診断された。3クラス抗レトロウイルス薬耐性HIV (3-DCR HIV)株は、3つのクラスの抗ウイルス剤に対して耐性を示し、HIV感染からAIDS発症までの期間が非常に短縮されているように見える。症例は40才半ばの男性。その後、患者はAIDSを発症した。HIV治療をしている患者における薬剤耐性はますます増加しているが新規診断症例で、以前に治療を受けたことがない患者における3-DCR HIV感染症例は極めてめずらしく、この薬剤耐性とAIDSへの急速な進行の組み合わせのパターンは以前の診断ではなかった。	

受理日	血封番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/6/17	50053	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された	
2005/6/17	50053	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。	
2005/8/12	50102	HIV	http://www.aegis.com/news/ads/2005/AD050524.html	中国東部の当局は1990年以降に売血をした人々に対するHIV検査の実施を開始。当局はAIDS流行の増加を阻止しようと検査を開始。中国保健省は中国におけるHIV陽性患者は84万人、AIDS患者は8万人と報告している。WHOは感染者数を150万~200万人と推定。	
2005/8/12	50102	HIV	The Telegraph, 2005年4月14日	インドのムザファルナガルの市民が、HIV陽性の9才男児の死亡後、少年が民間の血液バンクから提供された汚染血液からウイルスに感染した疑いから市全体にわたる抗議を行った。2005年4月13日のTelegraphの記事によれば、男児を治療した2名の医師の弁護士は男児は治療を受けた他の病院で感染したと主張したことなどについて記載。	
2005/8/12	50102	HIV感染、肝炎	The Tribune, オンライン版2005年3月23日	インドの会計検査院から多くのユニットの血液がHIVおよび肝炎に対する必須のスクリーニングなしに国立病院で患者に輸血されたと最近発表された。複数の医療機関が血液をHIVもしくは肝炎の検査をせずに輸血をしていた。ある病院では、HIVおよび肝炎検査キットが入手できなかったため、検査無しで1235ユニットの血液が使用されたと報告したことなどが記載されている。	
2005/8/12	50102	HIV感染、C型肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3) 21-22, (2005)	Scottish National Blood Transfusion Service (SNBTS)による献血血液の検査において278054の血液中計39で血液媒介感染症の陽性マーカーが確認されたこと、39件の感染血液はHCVが23件、HBVが8件、HIVが3件、過去の梅毒が5件であった。	
2005/6/17	50053	HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。	3
2005/7/8	50071	HTLV	Reuters News 2005年2月26日	今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。	4
2005/6/13	50052	HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っかけられたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。	
2005/6/30	50070	インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。	
2005/6/13	50052	インフルエンザ	RIVM rapport 630940003, Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。	
2005/6/13	50051	インフルエンザ	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。	
2005/6/17	50053	インフルエンザ	WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。	

受理日	血対番号	病原体(PT)	出典	概要	文献
2005/6/13	50052	インフルエンザ	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。	
2005/6/13	50052	インフルエンザ	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。	
2005/7/12	50072	インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。	
2005/6/17	50053	ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。	
2005/7/21	50074	ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。	5
2005/6/7	50055	ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センター-Dr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された	
2005/6/13	50052	ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。	6
2005/6/17	50053	エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。	

BSE関係

2005/8/12	50102	BSE	ProMed, 2005年2月8日	英国政府から1990年にスクレイピーに感染したと診断されたヤギが、実はBSE(狂牛病)であった可能性が出てしまうと発表された。	
2005/6/17	50053	BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。	
2005/6/17	50053	BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。	
2005/8/12	50102	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 5 2005年2月4日	フランスでの、BSEの原因である病原性プリオンタンパク質が同定された。成体のヤギ300頭を含む搾乳用ヤギ群で発見されたヤギのBSE症例1例が発見された。症例は2005年1月28日にOIEのBSEリファレンス研究所などにより確定された。原因は、不明もしくは結論に到達していない。	
2005/8/12	50102	BSE	OIE Press Releases, 2005年2月2日	フランスのヤギにおけるBSEの初症例の発生が確定された。2004年11月にフランス当局がOIEに対し、2002年に処分された際に2.5才であった問題のヤギについて報告したこと、一緒に飼育されていた600頭のヤギ(成体のヤギ300頭を含む)は全て処分され、成体のヤギはスクレイピーについて検査されたが結果は陰性であったこと、感染したヤギから単離されたスクレイピーはさらに調査が進められていることなどが記載されている。	
2005/8/12	50102	BSE	Pro Med 2005年1月25日	2002年にフランスで屠殺されたヤギが狂牛病検査陽性となり、ウシ以外で動物でウシ海綿体脳症(BSE)に感染した世界で初めての動物となった。ヨーロッパ会議はこの症例が単発例であることを確認するための詳しい検査を実施する予定。	
2005/8/12	50102	BSE	Pro Med 2005年2月3日	フランスのヤギがBSEに罹患したことが確定された。EU加盟国は、EUで飼育されるヤギに対してBSE検査を強化するとして欧州委員会による提案に同意した。オーストラリア産ヤギも検査される可能性が出てくる。	
2005/8/12	50102	BSE	http://www1.agric.gov.ab.ca/\$department/deptdocs.nsf/all/afs3781?open document	2003年5月に初めて確認されて以来、2例目のBSE症例がカナダのアルバータ州において最近発見された。	
2005/8/12	50102	BSE	Pro Med2004/12/30	カナダ食品検査局は、新たなBSE疑い症例を検出したと発表。12月30日午前発表。	

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	BSE	Pro Med2005/1/2	カナダ食品検査局 (CFIA) は、アルバータ州の高齢の乳牛が検査で牛海綿状脳症 (BSE) 陽性となったことを確認した。このウシは、飼料規制以前に汚染された飼料から感染したと考えられている。	
2005/8/12	50102	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release, 2005年1月11日	カナダ食品検査局 (CFIA) は2005年1月11日、カナダの全国 (BSE) サーベイランス計画により、アルバータ州の7才未満の個体で、ウシ海綿状脳症 (BSE) 感染を確認したと発表。	
2005/8/12	50102	BSE	カナダ公衆健康局2005年1月11日	2005年1月11日、カナダ食品検査局 (CFIA) はカナダのウシにおける3症例目の牛海綿状脳症 (BSE) を確定した。vCJDのQ&Aも記載。	
2005/8/12	50102	BSE	http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm	BSE感染が確定された米国のウシは「国産」で初めての症例と思われる。米国におけるBSE症例は2003年にカナダから輸入されたウシで発見された。2005年6月24日、米国農務省長官により明らかにされ、この動物が食物連鎖に組み込まれる前に阻止されたという事実は、防護対策は有効に働いていることを示していると述べている。	
2005/8/12	50102	BSE	ProMed, 2005年6月14日	今回の米国産BSE可能性患者となったウシは1997年8月以前に生まれており、この時期は米国政府がBSE感染拡大を予防するための新規飼料輸入規制を実施した時期であるとUSDAは述べた。	
2005/8/12	50102	BSE	ProMed, 2005年6月26日	2005年6月24日、米国農務省 (USDA) がイギリスWeybridge (国際BSE委託検査室である) 獣医学検査室 (VLA) より、2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症 (BSE) 検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表。この米国2頭目のBSE感染ウシはペットフード工場で屠殺されたウシであること、ウシの生産元は不明であるが1997年以前に米国内で誕生したウシであることなどの記載。	
2005/8/12	50102	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月14日	米国において、BSE感染したウシは、米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。感染源は不明もしくは結論に到達していない。	
2005/8/12	50102	BSE	ProMed, 2005年6月13日	情報源: Alertnet, 6月13日。米国農務省 (USDA) は米国のBSE疑いウシは1997年の飼料禁輸措置以前に生まれたと述べた。	
2005/8/12	50102	BSE	ProMed, 2005年6月21日	オーストリアのアルペン地方で再び狂牛病のウシが発見された。オーストリアで2例目となる。保健大臣と農業大臣が発表し、原因不明の死亡をした24ヶ月以上の牛に対する標準的安全手順であるルーチン検査により、11才の牛について確認された。感染経路は不明なことなど	
2005/8/12	50102	BSE	http://www.oie.int/Messages/050622AUT.htm	オーストリアで2例目のBSE症例が、2005年6月22日検査で診断された。1回目のBSE発生は2001年。問題のウシは1994年生まれで、5月26日に死亡しているのが発見され、それ以前に歩行障害を示していた。病原/感染源 - 不明もしくは結論に到達していない。	
2005/8/12	50102	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 25 2005年6月24日	オーストリアにおける今回のBSE感染ウシの概要。アウトブレイクの原因/感染源は、不明もしくは結論に到達していない。	
2005/6/13	50052	BSE	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症 (BSE) の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン (PrP ^{Sc}) が in vitro においてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。	
2005/8/12	50102	BSE	KATHIMERINI オンライン版 English Version 2005年1月19日	2004年前半に、ギリシャ国内のヤギ12頭が、脳変性疾患であるスクレイピーに罹患したと確認された。この他8頭がキプロスで、26頭がフランスで確認された。これは2005年1月18日に公開されたEU統計により判明した。なおEU全域で検査されたヤギは17294頭。	
vCJD発生国情報関係					
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040 (AFP記事 11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。	
2005/7/21	50074	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040 (共同ニュース2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病 (vCJD) 患者が確認された。	

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年2月4日	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初めての狂牛病のヒト変異型(変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD))患者が確定したと発表。この日本人男性が2004年12月にvCJDのため死亡し、この致死性疾患に1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	Canada Public Health Agency, Infectious Diseases News Brief, 2005年2月18日	厚生労働省は2005年2月4日、日本人で初めての変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)症例を発表した。症例は2001年12月に初めて神経症状を示し、2004年12月に死亡した40代の男性。患者は1988年に約1ヵ月英国に滞在したことが分かっている(正確な滞在期間はまだ確認されていない)、現在のところ英国滞在中にvCJD感染物質に暴露した可能性が有力である。患者がこれまでに輸血を受けた記録はない。患者が献血をしたことがあるかどうか日本赤十字は調査中。この症例と二次伝播の可能性について更なる調査が行われている。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年3月8日 http://news.xinhuanet.com/english/2005-03/08/content_2668406.htm	日本の厚生労働省は3月7日に、1980年～1996年に英国およびフランスに1日以上滞在した経験のある人からの献血を断るとした新たな規制を発表していたが、血液供給が不足した場合にはその規制を見直す可能性があることを表明。コンフォメーション依存性免疫アッセイ法(CDI)と呼ばれる検査法は元来、ウシ、ヒツジ、シカその他の動物での病原性たんぱく質プリオンの種々の形を検出するために開発された方法であるが、ヒトの脳組織中のプリオンを特定するだけでなく、標準的な免疫学的検査法よりも迅速かつ正確であることが確認された。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	Asahi Weekly, 2005年4月11日	厚生労働省は先月、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の拡大を防止するため1980年～1996年に1日でも英国に滞在した人の献血を禁止する計画を発表したこと、2005年4月11日のASAHI WEEKLYによればこの禁止により今でも少ない血液の供給がこの夏には更に制限されると考えられることなどについて記載されている。	
2005/7/21	50074	クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。	
2005/7/21	50074	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるvCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について	
2005/7/21	50074	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	オランダで最初のvCJD患者について。	7
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日	オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年4月22日	最近vCJDが診断された患者は、オランダにおいて初めて確認された症例である。政府関係者は他のヨーロッパ当局に対し、患者は献血もしくは組織提供を行っておらず輸血または組織の移植も受けていないこと、この症例が他者に感染を起こす、もしくは他者から感染したとは考えられないと述べた。患者がさらに疾患を伝播した可能性があるか決定するため調査中。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L21710368.htm	2005年4月21日オランダで初の「狂牛病」ヒト患者が報告されたが、オランダ産牛肉を摂食することは安全であると発表された。オランダ内務省はユトレヒト市街中央部の病院に入院中の患者が、異型クロイツフェルト・ヤコブ病と診断されたと公表した。ヨーロッパ当局には事態を通報し、この疾患が他の患者にも感染している危険が無いかどうか調査中であると報じられた。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年5月5日	オランダで「狂牛病」のヒト変異型であるvCJDと最近診断された26才女性が5月3日に死亡し、この神経疾患によるオランダ初の犠牲者になったとこの女性が入院していた病院当局が公表。フランスで新たに2名のvCJD患者が発見され、同国における患者総数は11名になったと保健当局が述べた。この患者らに献血歴は無いことなどの記載。	

受理日	血対番号	題名(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月11日	ポルトガルのDGS(Portuguese Main Directorate of Medical Services) は、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる青年男性患者1名の存在を発表した。ポルトガルは初のvCJD疑い患者を発表し、フランスは13例名の患者を確認した。	8
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年7月0日	ポルトガル保健監督局総長は最近、検査室診断結果(扁桃生検)で判明したポルトガルにおける最初のvCJD可能性患者を報告した。12才男子であり、専門家による医学的治療を受けている。イギリスへの渡航歴は無い。ダブリンにの病院入院中の患者がvCJD感染を疑われている患者が病院入院中と述べた。	
vCJDの疫学					
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 10 (2005)	英国の1990年代における感染に関連したvCJDによるさらなる死亡は比較的少ない、英国におけるvCJDの発生は減少、リンパ網内系細胞組織の調査結果により、臨床データの予想よりも実質的に高いvCJD有病率が示された。現在のところvCJD症例の予測は不確実なままである(輸血を介した感染症例が最近確認されたことから)ことなどについて記載されている。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間がvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。	9
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年4月4日	United Press International (UPI)社は、1971年に死亡したフランス人女性の脳が変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に合致した病理所見を示しており、脳標本を再検査しているとの情報を入手。もしこの発見が確定されれば、従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。NIHの研究者であったBruce Johnson博士は、2000年にこの女性患者の脳を検査し、変異型CJDの患者脳に認められる組織変化を確認したと証言。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月6日	ヨークシャー州のvCJD患者集団発生での4名中の一人であった18歳の少年が1997年3月にvCJDで死亡した。この少年は登録された献血ドナーである事実が隠されていて、供血を受けた7人が追跡された。2004年9月に専門家が、vCJD患者の血液を輸血された事実を知らせるべきだと決定するまで7年間、この事実は隠された。1980年代に脳外科手術によって、患者約50人がCJDに暴露された可能性が出ている。カルテが廃棄されたため多くの患者の特定は困難であった。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省Publications and statistics,2005/0231, 2005年7月1日	クロイツフェルト・ヤコブ病月間統計(2005年7月1日現在): 2005年7月1日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-24(散发例19, 医原性1, 家族性1, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2)	
プリオンの科学的進展					
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306(5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの医原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed,2004年12月6日	輸血用血液の安全性確保に関して懸念が高まっているが、英国国立血液サービス(English National Blood Service)の国立輸血微生物学研究所によれば、vCJDの病因である感染性の異常プリオンが、輸血によって伝播される可能性を示唆する証拠が増えている。London大学の研究チームによる、ヒトプリオン蛋白発現トランスジェニックマウスへの異常プリオン感染実験の結果、すべてのヒトがBSEの異常プリオンに感受性があると判明。プリオン病は、トランスジェニックマウスでの遺伝子型によって表現型が変化する。	

受理日	文献番号	感染症(P1)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed.2004年12月8日	1986年にBSEが同定されて以来、183000頭以上のBSE症例が英国内で確認された。そのうちの95%以上が2000年以前に確認されたが、今年の新規症例数は最低レベルとなっている。日本の動物衛生研究所は94ヵ月令のBSEウシの末梢神経組織と副腎から、BSEの原因物質である異常プリオン蛋白を検出。ポルトガルの生きたウシ、牛肉および関連する家畜製品輸出制限が解除された。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://medilexicon.com/medicalnews.php?newsid=20065&language=spanish	当初ウシ、ヒツジ、および他の動物における感染性プリオンを検出するために考えられた構造依存性イムノアッセイ(CDI)はこれまでの検出法よりもより早くより正確に検出可能。免疫組織化学的手法により科学者らはタンパク酵素に耐性を示す脳内のプリオンを確認することができることなどについて記載。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクテン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。	10
2005/6/17	50054	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年2月7日	英国で将来変異型ヤコブ病による多数の死亡患者が発生する可能性は低いと発表された。異常プリオンは感染動物の脳と神経系にのみ障害を起こすと考えられてきたが、病因となるタンパクがマウスを用いた実験に基づいて、他の臓器にも分布しうることが発表された。血液製剤・輸血による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病暴露の危険性が、FDAの伝染性海綿状脳症諮問委員会の主要な議題であった。感染の危険性を減じる新技术を期待する同委員会の提案に、Pall社がその新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。	
2005/6/13	50052	クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。	
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。	11
外国措置関係					
2005/6/17	50053	クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。	
2005/6/7	50055	クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。	

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.pei.de/english/professionals/haemate_info_050112e.htm	後に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病を発症したフランス人女性ドナーの血漿が、1996年に中間製品に使用されていたことを、2005年1月10日、ZLB Behringはポールエーリッヒ研究所に通知。この中間製品は血友病Aおよび後天性第VIII因子欠損に関連した出血の予防および治療などに用いられる。	12
2005/7/21	50074	クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第VIII因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。	
2005/8/12	50102	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.tga.gov.au/docs/html/ts epolicy.htm	医薬品および医療用具を介した伝染性海綿状脳症(TSE)リスク低減へのTGAの取り組み(新製品の申請には動物およびヒト由来製品においてはBSEの発生していない国の原料を使用すること、これが不可能な場合には材料のTSEの安全性の評価を行うことなど)、医療用製品におけるTSEリスク低減の要件の追補。	
2005/6/17	50053	ウイルス感染(チクングンヤウイルス)	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。	
2005/6/13	50052	ウイルス感染(HHV-8)	Transfusion 2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。	13
2005/6/13	50052	デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。	
2005/7/12	50072	デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。	
2005/7/8	50071	デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005;20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。	
2005/7/12	50072	トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	2004年以降インドでヒトのトリパノソーマ症が発見された。	
2005/6/17	50053	トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。	14
2005/6/13	50052	ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2 (2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。	
2005/6/17	50053	ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The IndependentBangladesh) Indendependent,Bangladesh, 11月21 日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。	
2005/8/25	50100	パルボウイルス	Transfusion 2005;45(6):1011-19	血液製剤によるヒトパルボウイルスB19の潜在的感染に対し製造業者はハイタイターのミニプールの核酸及び免疫学的スクリーニングを導入している。今回の報告段階で導入していれば感染が引き起こされなかった可能性がある。	15
2005/6/13	50052	サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11):1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。	
2005/6/13	50052	ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年~2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。	

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	文献
2005/6/13	50051	マールブルグ病	CDC/MMWR 2005:54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。	
2005/6/13	50052	マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年~2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。	
2005/7/8	50071	マールブルグ病	WHO /CSR 2005年3月31日-4月22日	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。	
2005/6/17	50053	マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。	
2005/6/17	50053	マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。	
2005/6/17	50053	マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。	
2005/6/17	50053	マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。	
2005/6/13	50052	マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染	
2005/6/13	50051	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。	
2005/7/29	50078	BVD(人畜共通感染症)	QJ Med 2005:98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。	
2005/7/29	50077	TTV(人畜共通感染症)	Veterinary Microbiology 2004:104:113-7	ブタTTVはブタの臓器や細胞の異種移植によりヒトへ感染する。ブタTTVはブタでは非病原性であるが、免疫抑制異種移植レシピアントで病原性になる可能性がある。したがって異種移植のブタドナーをスクリーニングすることが重要である。	
2005/7/26	50075	髄膜炎感染	CDC/MMWR 2005:54(Dispatch):1-2	米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染により臓器移植患者3名が死亡。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。	
2005/7/8	50071	髄膜炎感染	WHO /CSR 2005年1月11日	フィリピン保健省が、髄膜炎菌様疾患による患者33名の内、19名が死亡した(致死率58%)	
2005/8/12	50102	その他	Daily Yomiuri 2005年1月11日	通常のスクリーニングの一環として、日本赤十字社は今後4週間献血者に胎盤エキス注射の使用歴について質問をする予定。胎盤エキスを注射した血液には伝染性の病原体が含まれる可能性があるため、最近、東京の女性が急性肝炎を発症したことから。	
2005/8/12	50102	その他	European Medicines Agency, Evaluation of Medicines for Human Use. 2005年1月20日	血液伝播性感染症についての疫学的データに関するガイドライン: 感染症マーカー、ドナーのクラス分類、感染症マーカーのデータの報告、ドナーについての疫学調査と長期的傾向、残存危険性の評価についてなど記載。	
2005/7/29	50078	シャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとcCJD	International J of hematology 2004:80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとcCJDに注意しなくてはならない。	16